

# チェンマイ市のコミュニティ施策と地域共同管理

福島大学 牧田実

## 1 目的

タイの都市では、近年、自治体の範囲を一律に小さな地理的区画に分け、それをチュムチョン（地域）と称し、そこに住民の代表機関であるカナカマカーン・チュムチョン（地域委員会）を設置する動きが進んでいる。この報告は、タイ北部に位置するチェンマイ市を事例に、チュムチョンおよびカナカマカーン・チュムチョンの組織化と地域共同管理の実態を現地調査によって明らかにすることにより、タイの都市におけるコミュニティ施策の成果と課題を、制度と主体の両面から考察することを目的とする。

## 2 方法

タイ国政府内務省およびチェンマイ市を対象として、行政資料の収集・分析と聞き取り調査を行うとともに、チェンマイ市内のチュムチョンを取りあげ、カナカマカーン・チュムチョンの委員を対象とする聞き取り調査を行う。

## 3 結果

チェンマイ市は、バンコク都から北へ約 720km に位置するタイ北部の中心都市である。チェンマイ市は、約 40 の市域を 4 つの地区（クエン）に分け、それぞれに市の出張所を置いて行政運営を行っている。チュムチョンの組織化を促す内務省通達「都市自治体・衛生区の開発のためのチュムチョンの設置」は 1987 年に出されているが、チェンマイ市のコミュニティ施策はそれにやや先行し、バンコク都同様、スラム対策として開始され、1984 年にまず 2 つのチュムチョンが設立されている。現在では他都市と同様、その対象はスラムばかりではなく、一般に地域開発を行うべき地域をチュムチョンとし、順次、リーダーの存在など住民側の熟度が高まったところから組織化を進めてきた。2016 年現在、計 94 のチュムチョンが存在しており、チュムチョン人口は 36,603 人を数え、チェンマイ市全体の人口（130,936 人）の 28.0% を占めている。なお、未組織の地域は商業地などに多い。

チュムチョンは、その範囲に居住するすべての住民を包含する地理的単位であり、そこには住民の代表機関として、カナカマカーン・チュムチョンが組織されている。この意味で、チュムチョンは官製の行政区的な性格とともに、地域共同管理を担う住民自治組織としての性格をあわせもっている。チェンマイ市のカナカマカーン・チュムチョンは、住民による選挙によって選出された 9 名の委員によって構成される。役職としては、会長、副会長、書記、会計があり、そのほか、青少年、女性、福祉、財産管理、保健衛生・環境などの係を任意に置くことができる。会長は委員の互選によって決まり、その他の役職は会長が指名する（「カナカマカーン・チュムチョンの設立と運営に関するチェンマイ市規則」）。

## 4 結論

タイの都市に、近年一律に導入されるようになったチュムチョンは、官製の行政区的な性格と住民自治組織としての性格をあわせもっている。1990 年代以降のタイの民主化・分権化の流れに位置づくコミュニティ施策であると同時に、地域共同管理における住民の自助と参加を促す仕組みでもあるといえよう。